



現場から（最新のニュースから）

## 宇宙に行かなくても

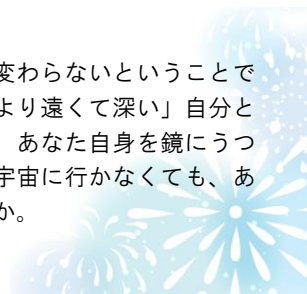


夏休みには、いままでにない経験をする事ができるでしょう。その経験を通して、その後の人生が変わる人もいることでしょう。しかし、なにか大きな経験をするからといって、本当にそのあとの人生観は変わるのでしょうか。宇宙飛行士・野口聡一氏の著書『どう生きるか つらかったときの話をしよう』（アスコム）から、「宇宙に行くと、感動して人生観が変わるはずだ」というプラスのイメージとは、実際は違ったことを語っておられる記事がありました。

宇宙飛行士の中には、宇宙に行って、ものすごく人生観が変わったという人もいます。しかし、野口氏は、3回も宇宙に行ったのですが、そのようなことはなかったそうです。たしかに、宇宙へ行き、無重力空間で、国籍も人種も世代も異なる仲間たちと生活しミッションに取り組むこと、地球を外から眺めること、宇宙船の外へ出て、死と隣り合わせの状態ですまざまな作業を行うことは、いずれも、何ものにも代えがたい素晴らしい経験だったと言われています。しかし、宇宙から帰って来たばかりのころは、その意味を考えることはできず、そのうちに2回目のフライトの準備が始まり、落ち着いて考える余裕もないまま、出発したそうです。2回目には、国際宇宙ステーション（ISS）に約半年間滞在し、さまざまなミッションを達成し、その時点での日本人宇宙飛行士の宇宙滞在期間の最長記録を更新したそうですが、そのフライトの後、大きな苦しみを抱くようになったということです。それは、「宇宙でのミッション達成」というプレッシャーが取れて、今後自分がどこへ向かっていけばいいのか、方向感を失ってしまったからだと言われています。

自分の価値のなさを感じて、やる気が出なくなったそうです。その時期は、10年間という長い時間で、「つらいことだらけの時代」だと言われています。たしかに宇宙は、貴重な体験ができたのですが、しかし一方で、宇宙に行くのはあくまでも「体験」にすぎず、宇宙に行ったからといって聖人君子になれるわけでもなければ、宇宙に何度も行っても見つからないもの、わからないこともあるということです。「自分は何者なのか」「自分は何のために生きているのか」「自分はどこに向かって歩いていきたいのか」「後悔のない人生を送るためにはどうしたらいいのか」といった問いへの答えは、宇宙へ行っただけではわからないと言われています。「宇宙よりも遠い」といえるかもしれない、自分の心の中への旅があったそうです。そこで、「他者の価値観や評価を軸に、『自分はどのような人間なのか』というアイデンティティを築いたり、他者と自分を比べて一喜一憂したり、他者から与えられた目標ばかりを追いかけていたりしているうちは、人は本当の意味で幸せにはなれない」「自分らしい、充足した人生を送るためには、自分としっかり向き合い、自分一人でアイデンティティを築き、どう生きるかの方向性や目標、果たすべきミッションを自分で決めなければならない」と言われています。（8月11日 DIAMONDonline <「宇宙に行って人生観は変わりましたか？」→宇宙飛行士・野口聡一さんの意外な答えとは>）

どんな大きな経験をして、他の人を見ている間は、根底にある自分は変わらないということでしょう。自分自身をしっかりと見つめるとき、宇宙に行かなくても「宇宙より遠くて深い」自分という存在のほんとうの姿が見えてくるかもしれません。少し立ち止まって、あなた自身を鏡にうつして見るように、じっくりと自分自身を見つめる時を持ってみませんか。宇宙に行かなくても、あなた自身を見ることができます。この夏、一度、いっしょに見てみませんか。



## 救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になる、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快楽に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをし、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(Ⅰヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってください。感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」

相談のある方は、いつでも連絡ください